



双松会会報

第43号「双松会」通巻47号「松高北高同窓会報」通巻47号

発行 松江市奥谷町164番地 松高会事務局 TEL: 0852-21-4888
島根県立松江北高等学校内 双松会事務局 FAX: 0852-21-4977
印刷 有限会社高浜印刷 TEL: 0852-36-9100

青春グラフィティ

Vol.20

普通科31期・理数科10期
石倉 弘文

♪人生は微笑がえし

○どのクラスにも

キャンデイズがいた

あの人気絶頂だった3人娘が
突如引退宣言をした昭和52年、
私たちは名門松江北高の門を叩
いた。最後のシングル「微笑が
えし」は驚異的なヒットとな
り、私のいた26Rでも、誰がラ
ンちゃん、スーちゃん、ミキ
ちゃんに似ているかで、クラス
中大騒ぎしたのを思い出す。年
下の男の子との切ない別れの歌
だったが、明るい未来が待つよ
うな高揚感もあり、いつも私た
ちに元気をくれる、人生の応援
歌のようでもあった。

○私たちの過ごした北高時代

この原稿の依頼を受けてか
ら、同窓生名簿「双松」を改め
て見返してみた。昭和55年卒の
欄、名前の横に「逝去」と記さ
れた方が何名かいらっしやる。
共に還暦を迎えたかったに違
いないが、志半ばでさぞかし口惜
しかったことだろう。在りし日
の笑顔を偲びつつ、ここに謹ん
でご冥福をお祈りしたい。

さて、話を高校時代に戻そ
う。私たちは川津校舎最後の入
学生として1年間を川津で過ご
し、2年生からは新築の赤山校
舎で学ぶこととなる。したがっ
て、先輩方とは川津校舎に出た



幽霊(?)の話もするし、後輩
とは、朝、ギリでチャリ押しな
がらの登りはきつかった1みた
いな事も話せるのだ。さらに2
年生の五月には「創立百周年記
念祭」が盛大に挙行され、市内
を提灯を掲げて練り歩くとい
う、まるでジブリ映画のような
貴重な経験もした。沿道からも
「兄が松中だった」「私も卒業生
よ」など温かい声援を頂き、改
めて北高が市民の皆さんに愛さ
れているのがよくわかった。
川津で一番の思い出と言え
ば、カレーラーメンが絶品だった
あの学食と、やはり学園祭での
終末行事だろう。弓道部が放つ
火矢で点火したファイヤース
トーム、その炎を囲んでのフォ



1978「若人の祭典」第50回全国高等学校野球選手権記念(鳥栖県大会)

クダンス、そして熱狂のソーダ
節へ。「北高の校歌は甲子園で歌
うためにあるー」。「ソー
ダー」には感動して涙が出た。
○野球部で忘れ難き人々
何故泣いたのかと言うと、私
はあのえんじと白を基調とした
早稲田カラーのユニフォームに
憧れて野球部に入っていたから
だ。今から思えば、野球を通し
て実に多くの先輩方、OB、仲
間たちとの出会いがあった。そ
の中でも特に忘れ難いのは監督
の原長さんと原武久氏。かの
竹下登元首相とは松江中学の同
級生、加えて巨人の長嶋監督ら
が大学野球部の後輩にあたる
という凄腕方だった。バント失敗
や消極的なエラーをする怒髪
天を衝くほど叱られもしたが、
ユーモアあふれるおしゃれな監
督さんだった。そして顧問の一
文字屋さんこと景山一暎氏(息
子さんは同期の景山直観君)。
景山さんには試合会場へのパス



送迎から選手の食事まで、あり
とあらゆる面でお世話になっ
た。人生インザホールな時で
も、あの満面の笑顔にいつも勇
気づけられた。残念ながらお二
人とも鬼籍に入られたが、きつ
と天国でも母校の活躍を肴に、
野球談議に花を咲かせておられ
るに違いない。
○人生は微笑がえし
とりとめの話になつてし
まったが、還暦を過ぎた私たち
には、もう若い頃のような気力
も体力も残されてはいない。人
生100年時代をこれからどう
生きていけばよいか、正直不安
もある。
だが、一番大事なのは、これ
からの未来を作っていく若い世
代や子供たちに、少しでもやり
やすい環境を残してやるという
ことだ。
いま生きづらさを抱え不安に
おびえる人たちに、今度は私た
ちが微笑という希望を返してあ
げるとみせかけて、まだまだ私た
ちはこれからも走り続けていく。



いあいさつ

会長 金津 任紀

高16期 (昭和40年卒)

日 ことに炎暑が厳しさをますます盛夏を迎え、双松会会員の皆さまには愈々ご健勝のこととお喜びを申し上げます。平素は当会の運営並びに事業推進に格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨今、新型コロナウイルス感染症との2年半以上にわたる間に漸く出口が見え始め、忘れかけていた日常や社会経済活動が徐々に戻りつつあります。一方、世界に目を転じますと毎日のように報道されているロシアによるウクライナへの軍事侵攻は一進一退の膠着状態に入りました。全く予断を許さない状況のなか民間人に多数の死傷者が出ており心を痛めておられる方も多いことでしょう。また、緊迫したウクライナ情勢や金融政策などを背景に資源価格や物価が高騰し国民生活や経済活動に負担感が増してきており、会員の皆さまも大なり小なり影響を受けておられることと思います。一日も早い戦争の終結と、こうした負のスパイラルからの早期脱却を願わずにはいられません。さて、母校北高でもコロナ禍によって制約を受けていた学習活動や部活動が工夫を凝らしながらも元の状態に戻りつつあることは我々卒業生にとっても喜ばしい限りです。2021年度

から松江市内の普通科3校の通学区制が廃止され、より特色ある学校づくりが求められる中、長い歴史と伝統ある県内屈指の進学校としての名門ブランドを維持向上させるべく、校長、教職員をはじめ関係者が総力を挙げて改革に取り組んでおられることに深く敬意を表する次第であります。ここ数年の進学状況を振り返ってみましても国公立大学や難関私立大学、また医学部への合格者が着実に増えてきていることは、新たな学校方針に基づく北高教育が着実に実を結びつつあることを実感させられます。また、魅力化に向けた改革の一つ「特色ある理数科カリキュラム」への取り組みの一端を示すものとして、3月に行われた高校生の「科学の甲子園」において物理分野で全国1位、総合成績でも鳥根県勢で過去最高の11位に入る快挙が地元紙で報じられたことは記憶に新しいところですね。理数系教育に力を入れてきたことが北高を全国にアピールできたことは卒業生にとっても大きな誇りです。双松会は卒業生同士の絆を結ぶ交流の場であると同時に、母校の躍進や生徒諸君の活躍を支えるよき応援団でありたいと考えています。学校だより「あかやま」でも紹介されましたが、

昨年暮れに行われた「エンパワメントプログラム」は、我々双松会が創設した「世界の入たれ北高生！基金」が活用され、英語力のみならず多面的な思考力、プレゼンテーション能力、自己肯定力などを養成する絶好の研修の場となりました。こうした双松会が何らかの形で関与できる学習活動は会員にとつて母校との一体感につながるものであります。学校におか



学校長あいさつ

校長 木原 和典

のたび常松徹校長の後任として着任いたしました木原和典でございます。双松会の皆様方には日頃から母校に對しまして、多大なるご支援とご協力をいただきありがとうございます。心より感謝申し上げます。私は平成十二年四月から十七年三月までの五年間、北高で数学教員として勤務いたしました。当時北高はめざましい進学実績を残すとともに、部活動でも県総体の総合優勝連覇や野球部の二十一世紀枠での甲子園出場など、文武両道の成果を数々残しておりました。十八年ぶりの勤務となりましたが、北高のよき伝統は受け継がれ、皆様のご支援により、これからの時代に必要なる力を育成する環境がしっかりと整っていると感じております。こうした北高教育の

れましては、次代を見据え生徒の国際的な感覚を磨き、様々な分野で活躍できる人材の育成をめざす先進的な教育を一層推進していただきたいと思っております。会員の皆さまには引き続き絶大なご支援を賜りますようお願い申し上げます。おわりに、双松会会員の皆さまのご健勝ご多幸と母校の益々の隆盛発展を祈念し、ごあいさつとさせていただきます。

神髄を継承しながら、新しい時代を切り拓く若者の育成に力を尽くしたいと考えております。四月には新入生として、普通科七十六期生二百七十七名、理科五十五期生四十名の合計二百五十七名を迎えました。新型コロナウイルスの影響を感じさせない、意欲と活気あふれる新入生を迎え、学校としての活動を進めています。年度の始めにあたり、私はこの北高で養ってほしい力として「読む力」「書く力」「伝える力」を示しました。コロナ禍や不安定な世界情勢、IT技術やAIのすさまじい進展により、社会で求められる力は日々変化してきますが、どのような時代になっても、またどのような道に将来進んだとしても、基本として必要とされる力は、この「読む力」「書く力」「伝える力」であると考えています。これらのベーシックな力は、高校時代における豊かな経験や人間関係の中で育成することが重要であり、日常の授業はもとより、学校行事・生徒会活動・部活動、そして新しい学習指導要領で重視されている探究活動など、あらゆる活動の場面で育成すべきものと考えています。北高にはこうした力を育成する環境が高いレベルで整えられています。生徒それぞれの個性を伸ばしながら一人一人の成長を支えたいと考えています。

北高では今年度三つの新たな体制がスタートしました。一つ目が学校の教育活動の要となる主幹教諭の配置、二つ目が高校での特別支援教育を「インクルーシブ教育」として推進する松江地区拠点校としての役割、三つ目が地域の方々と共に学校の教育活動を充実させる「松江北高校魅力化コンソーシアム」の設置です。特にこのコンソーシアムの活動においては、生徒の探究活動への支援や理数科を中心とした理系教育の充実、医療を支える人材の育成などの面で、双松会の皆様方のお力をいただく場面もあらうかと思えます。これからの将来を生きる生徒たちが、北高でしっかりと力を養って社会で活躍してくれるよう、引き続きご支援をいただければ幸いに存じます。最後にになりましたが、双松会の皆様方の益々のご活躍とご多幸を祈念いたしまして、挨拶といたします。

特集 145周年記念式典

昨年十一月十三日(土)に、サンラポーむらくもにおきまして「島根県立松江北高等学校 創立145周年記念 双松会総会」が執り行われしました。その様子を写真にてご紹介させていただきます。



島根県立松江北高等学校
創立145周年記念
双松会総会



創立の記念(左:24日・右:41日) 令和2年2月撮影

令和3年11月13日
於 サンラポーむらくも

記念式典式次第 (14:00~14:30)

- 物故者黙霊黙禱
- 開式のことば
- 会長挨拶
- 学校近況報告
- 校歌演奏 (CD)
- 来賓紹介ならびに祝詞祝電披露
- 叙勲・褒章記念品贈呈
- 閉式のことば

記念講演 (14:35~15:45)

演題 「島根創生と大学改革」
講師 公立大学法人島根県立大学 理事長兼学長
清原 正義 氏 (16期)

【経歴】

1947年松江北市生まれ
1965年(昭和40年)松江北高等学校卒業
京都大学教育学部卒業
東京大学教育学部大学院修了
島根県立大学教授、理事長兼学長を経て、2017年より現職
2014、2015年度 公立大学協会会長
現職は教育行政、教育学博士(京都大学)



記念講演
演題 「島根創生と大学改革」
講師 公立大学法人島根県立大学 理事長兼学長 昭和40年卒 清原 正義 氏 (16期)



祝 島根県立松江北高等学校
創立145周年記念双松会総会



島根県立松江北高等学校
創立145周年記念双松会総会



事務局だより

一、創立145周年記念事業について

○松江北高校創立145周年記念総会について

3ページで紹介しておりますとおり、今回は新型コロナウイルスの影響で、総会のみを規模を縮小して実施しました。県内の各期幹事のみ会場参加を、その他の会員の皆様にはオンライン配信をご案内し、ハイブリッド方式での開催としました。記念講演は16期の島根県立大学理事長兼学長の清原正義氏に演題「島根創生と大学改革」でご講演いただきました。会場には50名、配信は同時同帯に20名余りの皆様にご参加いただきました。会場開催はもとより、記念事業の一つであったホームページ開設からの初のオンライン配信にもなりましたが、無事に終えることができました。

○同窓会名簿「双松」

創立145周年の記念事業として、同窓会名簿「双松」(令和3年版)を昨年7月に発刊いたしました。現在、若干の在庫があり、価格5,000円(送料・税込)にて販売いたしております。事務局までお問い合わせください。

二、お礼

○記念総会寄付について

記念総会の開催にあたり、お願いしたところ、160万の寄付をいただきました。また、各期に拠出金をお願いしたところ、計26の同窓会から70万余りの拠出金をいただきました。ご披露に併せ、厚く御礼申し上げます。

ます。

△協力いただいた期

- 5期、7期、10期、11期、13期、14期、15期、16期、18期、19期、20期、22期、23期、26期、28期、30期、31期、35期、36期、38期、39期、40期、43期、50期、米子双松会、通信制双松会

○「世界の人たれ北高生！基金」について

140周年記念事業で設立された「世界の人たれ北高生！基金」のご寄付を引き続きお願いしましたところ、現在までに約300万のご寄付をいただきました。使途としてはまず、北高生の希望者が冬休みを利用して日本に留学している外国人留学生と5日間を英語のみで過ごすというエンパワーメントプログラムへの参加費用の補助に充てさせていただきます。昨年度3年ぶりにこのプログラムを開催することでき、ホームページで生徒たちの様子を配信させていただきました。現在もブログからご覧いただけますので、是非下記QRコードを読み取って、ご覧ください。



今年度も開催を予定しております、グローバル人材の育成に活用させていただきます。他には、社会に貢献する人材育成を目的に、その道の第一線で活躍する本校卒業生に講演をいただき、自らの将来について考える機会となる「世界の人たれ」講演会にも活用させていただきます。令和3年度は11月に58期(理数科37期)の山口県立大学准教授水瀬開氏に演題「自己を知ること、世界の人たる(わたし)」について(詳細は7

ページに掲載)で、今年度は6月に30期(理数科9期)大阪大学医学部教授の土岐祐一郎氏に演題「外科医として」で講演いただきました。今後も広く社会で活躍する人材の育成に基金を活用させていただきますと考えています。この趣旨を多くの方にご理解いただき、おかげで北高生にとって魅力ある事業が展開できておりますことを感謝申し上げます。御披露とご報告に併せ、厚くお礼申し上げます。

三、各地区の双松会の動向について

○東京双松会の総会

令和4年10月16日(日) 於・品川プリンスホテル

○近畿双松会の総会

令和4年11月26日(土) 又は27日(日)

○広島双松会の総会

令和4年11月中旬予定

○米子双松会の総会

令和5年2月中旬予定

○通信制双松会の総会

令和4年11月13日(日) 於・出雲ロイヤルホテル

四、寄付金のお礼(昨年の7月以降)敬称略

次の方々より、寄付金を頂いております。ご披露に合わせて、厚く御礼申し上げます。15期東京双松会より 7万9122円

令和4年3月卒 (普通科73期、理数科52期)より 104円

令和3年度 理数科研修旅行会計より 15円

五、その他

150周年事業に向けて記念館の資料整理を続けてまいります。残したい資料や写真等お持ちでしたら、事務局までご連絡ください。

令和4年度双松会幹事総会報告

7月9日(土)サンラボ1むらこもにて、「令和4年度双松会幹事総会」が開催された。約50名の幹事が出席し、14時から約2時間に及び審議した結果、全て承認された。

【議題】

- 1、令和3年度会務報告
2、令和3年度決算報告および監査報告
3、繰越金について
4、令和4年度会務計画(案)について
5、令和4年度予算(案)について
6、役員人事について(案)
7、令和4年度双松会幹事について(案)

【報告】

- 1、名簿について
2、会報について
3、HPについて

令和4年度双松会役員

- 顧問 松本 幹彦(中69・高1)
会長 庄司 肇(高11)
副会長 金津 任紀(高16)
古瀬 昌幸(高21)
勝部 昌幸(高21)
菅野 恵子(高22)
河原 一朗(高23)
泉 雄二郎(高26)
小山 理久(高28)
木原 和典
幹事長 金平 憲(高16)
副幹事長 庄司 尚史(高23)
景山 直観(高31)
栗原 康郎(高13)
杉原 伸治(高30)
伊藤 尚子(高40)

双松会145周年記念総会会計決算書

Table with financial data including income and expenses for the 145th anniversary commemorative general meeting. It lists items like 'Income from members', 'Expenses for materials', and 'Total' with corresponding amounts in yen.

監査報告

双松会145周年記念総会会計について監査いたしましたところ、適切に処理されていることを認めます。

令和4年 5/9 栗原 康郎 (監査人) 令和4年 5/9 杉原 伸治 (監査人)

双松会地区だより

東京双松会

東京双松会 事務局
嵯峨崎泰子(高35期)

令和3年度もcovid19に翻弄され10月の総会も中止という判断になりました。2018年秋から現事務局に交代しそのほとんどがコロナ渦中であつた為、予定行事を立てては順次中止の告知を行うこと早3年です。この間、皆様にご協力を頂き、昨年は会報誌を充実させ、その後はHPを亀以下の歩みで動かし

致します。予定しておりまし た世界的オペラ歌手の妻屋秀和氏(北高36期)が今春「文科大臣賞」を受賞されました。ご活躍の折、ご登壇は困難となりましたが公式HPにアクセスなさってみてください。末筆になりますが、熟帯化した様な連日の酷暑や不安定な日常の中、ご自愛頂きますようお祈り申し上げます。お問い合わせ先: 東京双松会事務局 〒102-0084 千代田区二番町11-3 「中央印刷事務器(株)内」 TEL 03-3265-4858 https://tksshq.qwc.jp/index.html 東京双松会ホームページ

近畿双松会

近畿双松会 事務局長 宍道 弘志(高31期)

長引くコロナ禍の影響で、この2年間ほとんど全ての行事を中止せざるを得ませんでした。今年「年次会報」の発行は例年通り続けることができました。状況も少し落ち着いてきたことから、6月には対面での役員会を開催し、さらに7月の文楽鑑賞会、秋のハイキングなどの諸行事、さらには2年ぶりとなる総会・懇親会の11月開催をめざす等、令和4年

東京双松会ホームページ



近畿双松会

近畿双松会 ホームページ: http://www.kinki-soushoukai.org/ QRからもアクセスください。 「メールマガジン」登録: ①QR、ホームページ、専用アドレスからメールアドレスを登録ください。 (*専用アドレス: kinkisoushoukai-net@kinki-soushoukai.org)

「LINE@」登録: 左記QRからお名前、卒業期を登録ください。 [「メールマガジン」登録]



近畿双松会



令和3年度 双松会会計決算書

Table with financial data for Heisei 3 (2021). Columns include: 収入総額 (5,326,357), 支出総額 (3,430,118), 差引残高 (1,896,239). Detailed breakdown of income and expenses follows.

令和4年度 双松会会計予算書(案)

Table with financial data for Heisei 4 (2022) budget. Columns include: 収入総額 (5,807,000), 支出総額 (5,807,000), 増減(△) (0). Detailed breakdown of income and expenses follows.

米子双松会 会長 岡 美知雄(高12期)
引き続きコロナ禍唯一の活動は、大山山麓ゴルフ場を利用して3月から12月迄毎月一回行ったゴルフコンペのみで、他の事業は、総べて通信による連絡で終始しました。これは全国双松会支部でも同じような状況と推察いたします。そこで、米子双松会からひとつ提案したいと思います。

監査報告
令和3年度双松会会計について、帳簿・証拠書類等を監査した結果、適切に処理されていることを認めます。
令和4年 5/9 栗原康弘
令和4年 5/9 杉原伸治

新型コロナウイルスの収束が見通せないなか、ウイズコロナの一環として、双松会の皆様が旅行や帰省の際、全国で一、二位の感染者数の少ない鳥取・島根を選んでいただき、秀峰大山を仰ぎ、日本海に伸びる弓ヶ浜半島の海岸に湧き出る米子皆生温泉をその計画に一泊プラスしていただい

一日10000円の電動アシスト付レンタサイクルで出来ま

す。是非一考されてはいかが

連絡先

米子双松会事務局 中西秀夫
〒689-3402
米子市淀江町淀江771
TEL&FAX
0859-56-2315

広島双松会

副幹事長 渡部 賢 (高36期)

当会では、会員各位のコロナウイルス感染防止を最優先と考

のお手元に届くところには、当会総会開催のご案内もお届け

お問い合せ先
広島双松会副幹事長 渡部 賢
〒733-0876
広島市西区高須台3-6-10
TEL&FAX
082-273-8204
e-mail
rskpapa200@sky.megaegnet.jp

通信制双松会

通信制双松会 会長 野津 裕

昨年、一昨年とコロナ禍で残念ながら総会が開催されず

卒業生5550名を最後に県立宍道高校に移管されて今に至

北高生の活躍

島根県高等学校 総合体育大会
男女総合9位
(男子総合7位)(女子総合15位)

5月下旬から6月上旬にかけて第59回島根県高等学校総

れ目標に向かい、全力を尽くしました。7月下旬から四国

全国大会

弓道部 男子個人 3年 佐々木陵充

登山部

男子団体 3年 藤原 徹也

中国大会

男子バドミントン部 3年 林原 和喜

女子バドミントン部

1年 京 拓音

男子テニス部

1年 角森 慶泉

○女子テニス部

1年 三島さくら
小林 綾
小林 柚葉
金坂 芽衣
森田 有紀
伊藤 愛理

○女子ソフトテニス部

3年 武田 萌
山田なつめ

○剣道部

3年 青木 和太

○弓道部

3年 佐々木陵充

女子

3年 桑谷 優菜
藤崎 葉音
浅野 美緒
荒木ひなの
箕田 有音
國須 あい
山本 莉子

○卓球部

3年 木原 篤俊

女子

3年 石倉 奈実
福田 葵
中田 遥
遠藤 歌乃
官澤明日香
水津 陽
中田 歩
柳浦あずさ
牧野 桃子

○陸上競技部

男子

3年 石倉 周也
2年 青戸 千晃
梶野 蒼太
後藤 昊

女子

1年 藤田龍之介
石倉 光貴
2年 天根 歩俐
大石 ゆう
森吉 日向
池田 紗季
1年 大峠 菜月
森 心菜
野津ここな

○ボート部

男子

3年 田中 友都
荒河 開生
牧野 耀聖
花岡 大輝
三井晴太郎
湯浅 壮也
岡田 篤弥
大庭悠太郎

女子

3年 門城 綾夏
安達 茉桜
門脇 史華
林 美菜里
林 芽生
松本 清香
小村 天音
小笹 寧
2年 米原もみじ

文化部の活躍

県内予選を通過し、7月8月に東京都で行われる全国高等学校総合文化祭に出場する部を紹介します。

○美術部

作品出品

3年 武田 優月
佐々木いづみ

○百人一首かるた部

島根県代表チーム

3年 池田 亘佑

○囲碁将棋部

囲碁

2年 木戸 健太

将棋

男子個人

1年 小川 涼生

女子団体

3年 澤 里奈
2年 高須ひすい
橋本明日香

○その他の全国大会

○囲碁将棋部

全国高校囲碁選手権

男子個人

2年 木戸 健太

○世界の人のたれ講演会

令和3年11月15日(月)

本校卒業生である山口県立大学 社会福祉学部 准教授 永瀬 開 氏を講師として招き、「自己を知るということ...世界の人のたれ(へわたし)について」という演題で講演していただきました。

世界の人のたれとはどういうことか。そもそも世界とは何か。そして、わたしとは何か。などを心理学的観点から世界の人のたれ(へわたし)について考察することのできた時間となりました。

人は、自分と他人との間の境界がはっきりしない乳児期から、両親や友人、教師など他者との関係の中で自己が育ち、高校生はアイデンティティの確立に悩む青年期にある。アイデンティティを確立するには、①過去現在未来の自分を時間軸で考えること、②身近な他者とやりとりをすること、③「役割実験」(学業、部活、ボランティア、アルバイトなど)をすることが大事である。身近な他者と対話をすることで他者の考えを知り、自分の考えが明確になり、様々な活動を「全力で」することによって、自分の向き不向きや適所に気付いていくというお話を伺いました。



また、最後には、大学での4年間、何を学びどのように社会と関わっていきたいかを考えておくことといった進路選択への助言や今後どのように「へわたし」を形作っていくべきなのか、人生の指針になるお話をうかがうことができました。大変貴重な学びの機会を与えていただけたことに感謝し、ご報告にあわせて厚く御礼申し上げます。

本年度の進路状況



進路指導部長 富田 一志
(理科12期)

2022年度大学共通テストが行われました。受験者数は、前年から4878人減の53万367人で4年連続の減少。一方で国立大学一般選抜志願者総数は前年並みの42万8千657人。第1段階選抜不合格者(所謂、足切り)数は3029人で増加した。二年目の共通テストの平均点は、ベネッセコーポレーション推定で、文系508点、理系513点(いずれも900点満点)と、いずれも前年度対比では、文系が44点ダウン、理系は59点ダウンといずれもダウン、特に理系では大幅なダウンとなりました。大幅ダウンとなった要因は、数学①(19・7)、数学②(16・9)、生物(23・8)といった科目の平均点大幅ダウンです。学部系統別の志願者数を見ると、国立大で語学系統、国際関係系統、薬学系統、理学系統、農・水産学系統などで増加が目立っている。コロナ禍で減少傾向が続いていた語学系統、国際関係系統では人気の回復が見られるがコロナ禍以前の水準には戻っていないのが実態である。医療系の人気は継続しており、薬学系統は2年連続の志願者増となっている。医学系統でも志願者数が対前年指数102と増加に転じている。共通テストになり出題傾向の変化から安全志向が弱まり難関大の志願者数が増加していることも影響していると考えられる。

本校生徒の入試結果を振り返ると、国立大学合格者数は、現浪合わせて延べ198で、昨年から26増加しました。前期合格者数が昨年の147から増加して165、中後期合格者数が昨年の25から33と、最後まで粘って合格を勝ち取った生徒が目立ちました。いわゆる難関10大学(旧帝国大7大学+一橋・東京工業・神戸)の合格者数は22で昨年の24とほぼ変わらず。特に京都大学現役4人合格は昨年の5人に続き例年にならない数字で生徒がよく頑張ってくれました。国立大医学科は6です。今回の共通テストでは全国の既卒生(浪人生)が4222人減少し過去最少の志願者数であった。全国的に浪人を選ぶ傾向であった昨年度の入試の結果、浪人生の少ない現役生中心の戦いであったと思われまます。平均点設定を50%にする等話題の多い共通テストであるが、2年目の今回、平均点自体は大きくダウンした。教科によれば新傾向の問題が出題されているものもあり、この平均点変動の影響もあり、本校生の中にも動揺する者も見られたが志望を貫き、所謂、D、Eという可能性の低い判定で志望校にチャレンジし、合格を勝ち取った者が多かったように感じる。

調査書の形式も変わり、様々なことが変化しつつある。この改革は、先行き不透明な社会を生き抜く力をつけるために、大学教育・高等学校教育とその2つをつなぐ大学入学者選抜を三位一体で改革する「高大接続改革」の一部で、大学教育・高等学校教育の改革は既に進行している。また、大学入学者選抜においても、入試問題の質や、入試形態が変化しつつある。入試改革では、面接試験での自分の思いが重視され、プレゼンテーションを課す大学も徐々に増えている。島根大学では昨年度から「へるん入試」という名前での新しい総合型選抜入試も実施されている。この改革の源流は、「社会がどのような人材を求めているか」にある。すなわち、高校生にとって「どのような人材になるか」という問題を「自分材」として考えてみるということである。自分がどんな力をつけ、どんな形で社会に貢献し、どんな人々を幸せにするために生きるのか、そんな「生き方」を考え、次のステージを選択することが重要になる。それが所謂、将来の「夢」につながる。その夢に対する思いが強ければ強いほど、目の前の高い壁に向かう意欲が強くなる。次のステージに向けて壁を乗り越えることこそが「受験」である。北高では、何度も何度も担任との面談を繰り返して、何ども進路希望調査を行う中で、自分の「生き方」を考え、そのために必要な力をつけるための努力を継続する。その過程では大きな苦しみを伴うことも少なくない。特に現役生にとっては、何もかもが初めての経験で、手探りの模索が続く。しかし、その

進路状況

令和4年度入試学校種別合格者延べ数及び就職者数(令和4年4月集計)

卒業生	令和2年3月			令和3年3月			令和4年3月		
	現	卒	計	現	卒	計	現	卒	計
国立大学	100	27	127	116	22	138	127	32	159
公立大学	31	7	38	28	6	34	39	0	39
私立大学	306	85	391	258	74	332	287	69	356
短期大学	12	4	16	16	2	18	8	0	8
専門学校等	22	1	23	13	1	14	13	1	14
就職			0			0			0
合計	471	124	595	431	105	536	474	102	576
クラス数	7クラス			7クラス			7クラス		

経験を乗り越えたとき、知らぬ間に「生き方」を考え、前に進むことができるようになる。2年生のときにコロナウィルスの流行による長い休校からスタートし、県総体・インターハイの中止、分散登校の実施を経験し、3年生のときには多少落ち着きインターハイなども実施されたが例年とは違うことが多かった。今春の卒業生であった。しかし、先にも挙げたように、京都大学現役4名合格をはじめとして、受験に関しては大きな成果を残してくれた。ウイズ・コロナということでも例年と異なる学校のあり方を模索している時代である。コロナと共生する時代が来るのであろう。その時代を生きていく生徒達に對して我々はどうのような教育をしていくべきなのか。北高が試される時代が来ている。

編集後記

盛夏を迎え、双松会の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。コロナ禍も三年目となり、新しい生活様式に慣れてきましたが、まだ収束の目処は立っていません。本校では「学びを止めない」ために、教員・生徒ともに試行錯誤を重ねながら日々の学習に取り組んでいます。今年度の新入生からは新学習指導要領が実施され、教育課程が大きく変わりました。また、「一人一台端末」が導入され、授業でも家庭学習でも積極的にICTを活用し、新たな学びを展開しています。生徒は揺れ動く環境の中でも柔軟に対応し、自分で学びを広げ、進めています。社会に出てからも、自ら課題を見つけ他者と協働しながら解決し、よりよい未来を創造する力を培ってほしいと思っています。

私は今年度から北高に赴任してきました。母校に帰ってきて、時代は少しずつ変化しても、懸命に学びに向かう北高生の姿は変わらないのだなと実感しています。夢を追いかける北高生を支えることができるよう、力を尽くしていきます。

最後になりましたが、お忙しい中、原稿を執筆して頂きました皆様、誠にありがとうございます。そして、すべての双松会の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。(事務局)